

<執筆要領>

原稿を投稿される方は、本執筆要領に従い、ご執筆ください。

1. 使用言語

使用言語は原則として日本語または英語とし、必要に応じてそれ以外の言語での投稿も認めます。

2. 原稿の種類と制限文字数

SFCジャーナルは日本語と英語が混在する雑誌であるため、空白も含めた英文字数(letters)に換算した文字数制限を設けています。主に日本語で書かれた領域については、日本語の文字数を2.5倍に換算してください(日本語12,000文字ならば30,000 lettersに換算)。

研究論文、総説・レビュー論文、実践報告は最大50,000 letters、研究ノートは最大30,000 letters、書評、学会動向は最大15,000 lettersとします。これらの文字数には本文、図表、脚注、引用文献を含みます。

図・表は原則として、A5判の半分もしくは全ページを占めるものとして想定して作成し、前者(小サイズ)の場合は1,250 letters、後者(大サイズ)の場合は2,500 letters分のスペースとして換算してください。

例えば、日本語で書かれた領域が 12,000字、英語で書かれた領域(要旨と参考文献など)が7,000 letters、小サイズの図が5枚ある研究論文の場合は、以下のように換算されます。

$$12,000 \times 2.5 + 7,000 + 1,250 \times 5 = 43,250 \text{ letters}$$

合計が50,000 lettersを上回っていないので、この場合は文字数制限の対象にはなりません。

原稿の種類、内容、および制限letter数は、表1の通りです。制限letter数には図表、脚注、引用文献等を全て含みます。

表1 原稿の種類と制限文字数

種類	内容	制限letter数※ (日本語文字数)
a) 研究論文	実証的または理論的研究の成果として、オリジナリティを有するもの。	50,000 (20,000)

b) 総説・レビュー論文	そのトピックに関する重要かつ適切な複数の既存文献に基づいて総合的な評価をしたり、過去の経緯、文献間の比較、評価などを総合的に論じ、著者のオリジナルな考えや見方を提示するもの。	50,000 (20,000)
c) 実践報告	新規性のある取り組み、フィールドでの実践などを報告するもの。より広い分野での実践やスケールアップ、政策見直し等への含意を有するものが望ましい。	50,000 (20,000)
d) 研究ノート	研究の中間的な報告や予察的な研究報告を行うもの。	30,000 (12,000)
e) 書評	書籍等の文献の批判や紹介をするもの。	15,000 (6,000)
f) 学会動向	研究展望について解説するもの。	15,000 (6,000)

※ letter数には、本文、図表、脚注、引用文献等を含みます。引用文献の上限は50件とします。
ただし、レビュー論文の場合はこの限りではありません。

3. 基本構成

原稿は次の順に作成し、表紙から文献まで通しページ番号を下中央に、および通し行番号を左側につけてください。ページ番号および行番号の追加はMS-Word等の機能を使ってください。行番号はMS-Wordの場合、「ページレイアウト」もしくは「レイアウト」のタブより「行番号」を選択し、表示されるリボンの中から「連続番号」を選択することで表示できます。(MS-Wordのバージョンにより方式が異なることもあります)。

1ページ目 (表紙)

- 原稿の種類: a) 研究論文、b) 総説・レビュー論文、c) 実践報告、d) 研究ノート、e) 書評、f) 学会動向より選択してください。
- タイトル: タイトルは簡潔に内容を表すものにしてください。日本語と英語の両方とも記載してください。ただし本文が英語以外のときは、本文使用言語、日本語および英語タイトルを記載してください。
- 著者名: 電子ファイルで提出するMS-Wordファイル原稿では、著者全員の氏名、所属機関、職位を日本語および英語で記載してください。PDFファイルならびに別途、ハードコピーで提出する原稿については、著者名、所属名、職位、謝辞を含まないものにしてください。
- 抄録: 日本語250字以内と英語625letter以内の2種類を掲載するため、両方を記載してください。英語は必ず英文校正業者か英語が母国語の専門家による校閲を受けてください。
- キーワード: 日本語と英語のそれぞれについて3から5個を記載してください。

2ページ目以降（本文）

- 本文中で著者が推測されるような表現は避けてください。
- 本文例
 - 1 緒言（はじめに、など）：背景と目的を記述してください。
 - 2 方法：研究対象や方法などを具体的に記述してください。
 - 3 結果：研究結果は、図や表を用いて記述してください。
 - 4 考察：結果と過去の文献等を参考にして導かれる考えや論理を記述してください。
 - 5 結論（おわりに、など）：研究結果から導かれるものを記述してください。※各項目の小節は、3.1、 3.2、小節内の項は、3.1.1、 3.1.2のように記してください。
※研究論文の場合のあくまで一例であり、この限りではありません。
- 謝辞は必要最小限の範囲で記載してください。
- 研究助成の有無および利益相反の開示について、投稿論文では、著者はその研究にバイアスをもたらす可能性のある全ての利害関係（金銭的・個人的関係）を開示することが求められています。利益相反に該当しない場合はその旨を記載してください。（例：利益相反に該当する事項はない）
- 脚注がある場合のみ、以下6に示す方法で、文末に本文中の番号と呼応する形で入れてください。
- 引用文献は以下7に示す方法で記載してください。

なお、上記原稿に加えて、別添の用紙「KEIO SFC JOURNAL記載事項記入用紙」にも必要事項をご記入の上、必ず原稿とともにお送りください。

※記載事項用紙→ダウンロードできます。

URL : <http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/journal/form.html>

4. 使用文字・フォント

フォントは日本語の場合は明朝体12pt（英数字についてはTimes New Roman 12pt）とします。英語の場合はCentury 12pt、あるいはTimes New Roman 12ptを利用してください。

句読点は、日本語は原則として「、」「。」を使用し、数学記号が多い論文および外国語は「,」「.」を使用してください。

新字、新カナを使用してください。本誌はヨコ組みのため、句読点、カッコ、コロンなどはヨコ組の表記になります。

数字は、半角アラビア数字を使用してください。

5. 図表の表記

図については図番号とタイトルを図の下に、表については表番号とタイトルを表の上に記載してください。

例：日本語の場合「図1 ○○○○」「表1 ○○○○」

英語の場合「Fig. 1 ○○○○」「Table 1 ○○○○」

図表を他文献からの引用または転用する場合は、必ず出所を明確に示すこと。

記載例：「渡邊(2002) p. 76図8より転用」

(以下は採録が決定した場合に、提出を求めます)

- ① 写真（点で構成されたグラフィックス）：
デジタルカメラで撮影したものであれば、解像度350 dpi以上のオリジナル写真データを標準的な画像フォーマット（JPEG）のファイルとして、またアナログ写真で撮影されたものであれば、紙焼きの形でご用意ください。
- ② 線画（線で構成されたグラフィックス）：
線画を作画したオリジナルのCGソフト（AI, PPT等）から直接EPSファイルに変換したファイルをご用意ください。
- ③ 表：スキャン画像ではなく、作表した際に使用したソフト（Excel等）のファイル形式でご用意ください。

6. 注

本文該当箇所に上付きで、1)、2)、3)と注番号を付け、本文の最後に通しで記述してください。

7. 文献の引用方法・文献リスト

文献引用の方法および文献リストの表記方法は、以下のようにしてください。

■ 文中での文献引用の方法

直接引用する場合は、句読点を含めて一字一句正確に書き写し、引用部分がわかるようにしてください。

例) 佐藤(2001)は、「・・・・・・である」(佐藤2001、p. 25)と述べている。

同じ著者の同一年の文献を複数引用するときは、発行年にアルファベットを付けてください。

例) 藤沢(2010b)によれば……

外国語論文から引用する場合は、アルファベット標記のままにしてください。

例) 単著なら(Fukuzawa, 2004)

例) 二人の共著なら(Fukuzawa and Fujisawa, 2018)

例) 三人以上なら (Fukuzawa et al., 2018)

既に日本語訳されている文章からの引用の場合、外国人名は、以下の方式で表記してください。

例) カタカナ表記名 J. ピアジェ (J. Piaget) (括弧内は表記可能な場合)

例) 漢字表記名 毛沢東

特に人文科学や社会科学系の論文においては、学術上、論文の展開上重要と思われる人名は、原則としてカタカナと原語での並列表記となりますが、すでに一般的となっている人名、あるいは論文の展開上特に重要ではない人名については、併記は不要です。

■ 文末の引用文献リストの書き方

日本語文献は著者名で五十音順に、外国語文献は著者名（苗字）でアルファベット順に掲載します。各文献ごとの表示方法を以下に記しますので、必要項目を順番どおりに並べて入稿してください。共著者の記載は、最大5人までの範囲で任意とし、6人以上の場合は「ほか」「et al.」などで省略してください。

① 論文雑誌

日本語は、著者名（発行年）「論文タイトル」『ジャーナル名』巻（号），掲載ページ数、の順番、外国語も順序は同様ですが、表記については論文タイトルのカギ括弧（「」）をダブルコーテーション（“ ”）に、ジャーナル名は括弧で囲まずにイタリックで表記してください。記載例は以下に示します。

a) 日本語論文の記載例

秋山美紀、武林亨(2013)「在宅医療の担い手としての診療所機能の現状と効率的な療養支援のための地域連携の課題」『医療と社会』23(1), pp. 3-11.

b) 外国語論文の記載例

Kuroda, H., Inui, M., Sugimoto, K., Hayata, T., Asashima, M. (2002) “Axial protocadherin is a mediator of prenotochord cell sorting in *Xenopus*”, *Developmental Biology*. 244(2), pp. 267-77.

② 書籍

a) 日本語図書の記載例

清水唯一朗 (2013) 『近代日本の官僚- 維新官僚から学歴エリートへ』中央公論新社。
山本龍彦、清水唯一朗、出口雄一編 (2016) 『憲法判例からみる日本』日本評論社。

b) 日本語図書の分担執筆章（または部分）の記載例

中澤仁（2016）「プラットフォーム設計の思想」村井純監修『価値創造の健康情報プラットフォーム』慶應義塾大学出版会.， pp. 65-94.

c) 外国語図書の記載例

Shiratori, R., Arai, K., and Kato, F. (Eds.) (2004) *Gaming, simulations, and society: Research scope and perspective*, Springer-Verlag.

d) 訳書の場合

グリーン, L.W., クロイター, M.W. 神馬征峰訳（2005）『実践ヘルスプロモーション-PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価』医学書院.， pp. 10-18.

注) 引用時に同じ著者の同一年の文献を複数引用した場合は、年号の後に引用時に用いたアルファベットと同じものを記載してください。

例) (2004a) (2004b) (2004c)

③ ウェブサイト等からの引用

ホームページ、インターネットウェブサイトからの引用については引用内容が明確に記載されているURLを示し、アクセスした年月日を括弧内に記載してください。書籍とウェブサイト双方に同一の引用文献がある場合は、書籍を優先引用文献としてください。

a) 掲載文書発行年がわかる場合の記載例

厚生労働省（2008）「主な施設基準の届出状況等について」

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0716-3c.pdf>（2009年2月20日アクセス）

b) 掲載年が不明な場合の記載例

厚生労働省「健康日本21（第二次）」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21/kenkounippon21（2017年12月1日アクセス）